

次の五点を人間の特性だと結論づけました。その特性を十二分に自覚することが、正しい人間観の構築に結びつくと思います。

第一点目は、人間は「アタマが良くなる」たった一つの動物であること

第二点目は、人間は「理性と知性と良心がある」たった一つの動物であること

第三点目は、人間は「創ることができる」たった一つの動物であること

第四点目は、人間は「悟ることができる」たった一つの動物であること

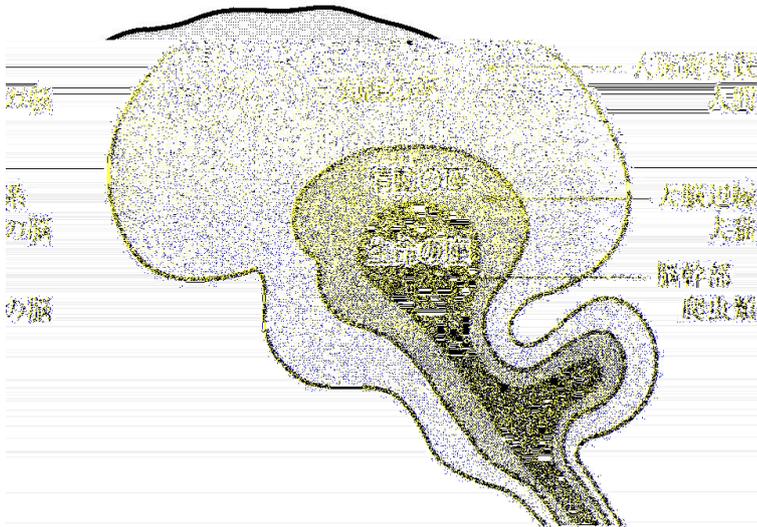
(悟るとは、この世の真実を知り、その真実に従って生きることだと思います。宇宙の理を知り、神に近づけると言ってもいいかもしれません。あるいは神と一体化できるようにも思います。---???)

第五点目は、人間は「地球上の動植物の究極の存在」であること

です。この五点に「人間とは何か」が集約され、私たちがどう生きるのが正しいかのヒントが隠されているように思うのです。

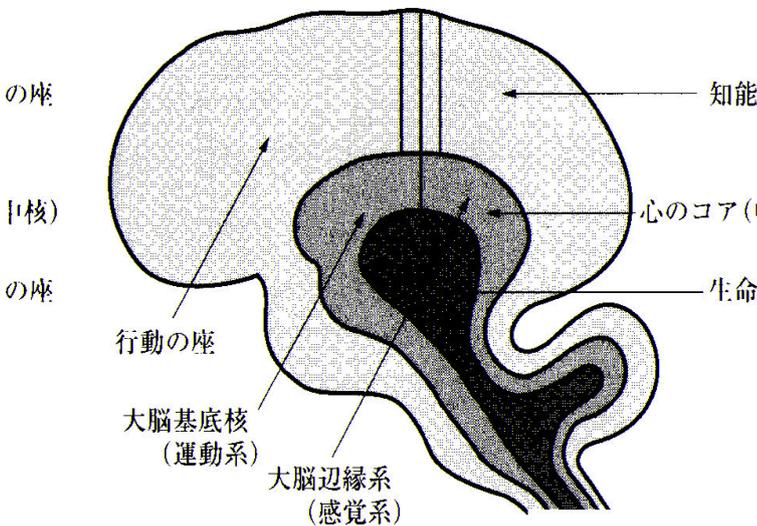
図 1

A：脳の三層構造(古い考え)



人間の脳は、大変入り組んだ構造をしていて複雑ですが、最も簡単に考えますと、三層からできています。生命の脳と言われる脳幹と、情動の脳と言われる中脳、そして知能の脳と言われる大脳です。

B：脳の三層構造(新しい考え)



中間の中脳は、実は脳の高次統御機能であることがわかってきました。"ここ"のコアは、後方に位置する感覚系の大脳辺縁系の諸核と、前方に位置する運動系の大脳基底核の合体によって構成されています。また、一番外側の大脳新皮質も知能だけでなく、行動の中核であることも知られています。"ここ"のコアの感覚系は大脳新皮質の知能の機能をコントロールし、また、運動系は大脳新皮質の行動を支配することが新しくわかってきました。したがって脳の三層構造は、図 1 の A から B のように変えることができます。

「くれない族」

この種の責任逃れの人は、よく「何々してくれない」と、くれないという言葉や発想を多くもっているようです。以前、そういった奥さんのことを「くれない族」と呼んだそうですが、それは奥さんだけでなく、会社員にも、公務員にも、学生にも、多くいるようです。

例えば、

「聞いてくれなかった」

「言ってくれなかった」

「教えてくれなかった」

といった種類の言葉です。これもよくよく話を聞いてみると、

「聞いてくれなかった」ではなく、「言わなかった」

「言ってくれなかった」ではなく、「聞かなかった」

「教えてくれなかった」ではなく、「教わらなかった」

なのです。すべて自分から行動を起こさなかったことを棚に上げて、相手を攻めるわけです。なぜ、その人が自分から行動を起こさなかったのかを考えてみると、**それらの人たちは皆、リスクと責任をもたずにいこうとする**から、例えば情報というものは自分から取りにいくなのに待っている、といった姿勢なのです。

*自分の天命を見つけるのが、人生前半の旅

自分の役割を見つけるためにも、勉強や経験というものがあり、そういった活動を通じて、自分に内在するものを知るのだと思っています。だからこそ、人間のアタマはどんどん良くなる特性があり、正しい人間観に基づいて生きれば、ついには自分の天命のようなものを自覚するようになると思うのです。

そう考えますと、人生の前半、一般的に言って20代から30代までの若い間は、自分はほんとうは何をやりたいのか、何をやるのが天命かを知る旅。そして早い人で30代、**遅い人で50代前半からの人生の後半は、そのやりたいことをまず知り、そしてやり遂げ、高める旅、天命を全うする旅と考えていいのではないのでしょうか。**

では、まだ天命に気付いていない若い人たちはどうすればいいのでしょうか。

私は、より多くの人と会い、より多くの知識を吸収して、まだ見知らぬ自分に気付いたり、自分の特性を磨き高めていくことがまず第一だと思います。その際に、決して忘れてはならないことは、「リスクと責任をもった生き方」と「良心と自然の声に従った生き方」です。この二つの生き方をしないと、いくら多くの人と会い、知識を吸収しても、なかなか自分の血となり肉とならないからです。

人生最大の課題；「自分は何のために生まれてきたか」

船井氏の自分観

私はどんな人間かと言いますと、私の特性は、

第一に物事の本質をとらえたり時代の先行きを洞察するのがほんとうに好きで、ほとんど外れることがありませんから得意と言っていいと思います。

第二に、それらを論理的に考え、整理するのが好きですし、誰もが納得するように説明するのうまいと思っています。

第三に若い頃から髪の毛が薄かったこともあって人を差別しない姿勢が身につき、また人間心理もいや応なくよく勉強したので、たいていの人を気分よくさせる雰囲気が私にはあるようです。

第四に、これは特に若い頃はそうだったのですが、負けず嫌いで、勝つための戦略戦術を考えるのが好きだったことで、実際上も負け知らずで生きてきました。

第五に人に教えるのが大好きで、上手なようです。

こんな特性を見ると、経営コンサルタントになるために生まれてきたようなものだ、我が身を振り返って笑ってしまいます。

逆に私にないものや嫌いなことを挙げますと、第一に人に使われたり指図されるのが大嫌い。第二にファッションや観光や芸術といったことに関心がありません。第三に表面的なことを追いかけたり、誰がどうのこうのしたという噂話の類を見聞きするのは好きではありませんし興味もありません。

まず好きなこと、イキイキすることをやる

*リストアップの6つのポイント

自分の特性をリストアップするときのコツをお伝えしましょう。

まずは、書くということです。アタマで漠然と考えているだけでは、思考というものは煮詰まったものにはなりません。実際に言葉にして書くことで、思っていることや感じていることが明確になってきます。明確にすることで、自分の特性が定かになり、また自己認識も強くなるのです。

第二は、何を書き出すかということですが、私は次の6つを別々に洗い出して書いてみたらどうかとアドバイスしています。

一つ目は、自分の性格的な長所。

これは、人と話すのが好きだとか、細かいことをいじるのが好きだとかいうものです。短所は挙げる必要はありません。これによって自分が力を発揮できる仕事の性質がわかります。遺伝子がONになりやすい世界がわかります。

二つ目は、得意なことです。

これは、小さいときまで遡っていいでしょう。例えば、スポーツが得意だとか、絵を描くのが得意だったといったものです。同じく苦手なことは挙げる必要はありません。生まれもった特性が基本的にはそこに出ています。

三つ目は、信条です。

信条には自分がどう生きたいのかという願望が隠されているのです。その願望は往々にして自分の正直な気持ちの反映ですし、人間は願望に沿ったときプラス状態になりますから、書き出したほうがいいのです。例えば、自分は縁の下の力持ちとして評価されたい、自分は絶対に人の心を傷つけないといったようなことです。

四つ目は、これまで楽しかったことやのめり込んだことです。

仕事の分野でも小さい頃のことでもいいでしょう。コンピュータのシステム開発を担当していたときはほんとうに楽しかったとか、中学生のときはラジオなどを分解して組み立てるのが大好きでのめり込んでいたというようなことです。実は、これによって、二つ目に得意として挙げたけれどどうもしっくりこない世界、つまりあなたに合っていない世界がわかります。その世界はここでは挙がってこないのです。

例えば、親が教育としてピアノを習わせたからピアノは確かに人よりもまいけれど好きではないというようなことがわかるのです。また、得意とは言えないけれど、好きな分野がわかります。例えば、これまでパントマイムを習ったことはないし、それで人から拍手喝采を浴びたこともないけれど、この前の杜内イベントで初めてやってほんとうに夜も忘れて熱中して面白かった。得意なんて言えないけれど、初めて気付いた自分の特性かもしれないなどということもありますね。往々にして潜在力が初めて発揮されたときがこの段階で、これは注目すべき特性です。もちろん、下手の横好きという場合もありますが。

五つ目は、四つ目とよく似ていますが、**やっていて飽きないこと、苦にならないこと**です。私は文章を書くのがほんとうに苦になりません。もちろん、締め切りに追われて大変なときもありますが、書いているときは時を忘れてやっています。このように、苦にならないことというのは、裏返せば大きな特性なのです。むしろ、ほんとうの特性が如実に現れている場合もあるのです。

六つ目は、やってみたいとあこがれていることです。

ここには本性の声に合った願望が隠されていることがあるのです。私は絶対に歌手とか俳優になりたいなんて思わなかったのですが、それは本性に合わないからでしょう。そのかわり武道家や大学教授になりたいと若い頃は時々考えました。ただ、この願望は、アタマで考えたり、エゴ的な発想によることもあるので、参考程度にしたほうがいいのかも事実です。

これらのことを総合して言えば、一つ目の性格や三つ目の信条に適合し、二つ目と四つ目のリストアップにも挙がっていて、五つ目に必ず挙がり六つ目にもリストアップされたものであるならば、ほぼ間違いなく、あなたの特性や使命を表したものと一言えそうです。

その特性や使命を正しく活かすことが、あなたの生まれてきた役割と言っているように感じます。しかし、六拍子揃っている人ならともかく、普通はそこまでっていないでしょうから、書き上げたリストを見て、一体自分は何に向いているのか、どんな特性があるのか、よくよく思い巡らして下さい。漠然と考えていたときよりも整理されるはず。そこから導き出された自分の特性が正しい自分観を知るポイントなのです。また、そこから導き出されたものにあたりをつけて、それに関する勉強や経験をするのもいいでしょう。

例えば、「自分は今、営業をやっているけれど、性格的な長所は、コツコツ型でどちらかと言うと気長なタイプ。飽きっぽくなくて、一つのことを徹底してやるところがある。得意なものとしては、よく言われるのが手品。今でも得意先の接待などで上司に言われるので披露しているが、うけはいい。でも、自分では人前でやる手品よりも、料理のほうが得意と思っている。信条は、人を喜ばせるよりも、まず何よりもだまさないこと、正直に生き

ること。小さい頃は機械いじりが好きで、会社では商品マニュアルを作成する仕事のときは没頭していた。苦にならないことは、営業から帰ってきて売上げ推移グラフを作成したり、あとはジグソーパズルかな。そうだ、ポケーと何かをあれこれ考えで時を過ごすことも苦にならない。一度やってみたいとあこがれていることは、うーん、今のところはこれといってない」

この人の特性は、だいたいはつかめます。どちらかと言っていると、人との交流で自己表現するタイプではなく、物づくりや研究に向いているようです。それもどちらかと言っていると、芸術などの感性的なものではなく、コツコツと作り上げていくようなものだと言えます。

しかし、今これといってあこがれている世界がないことから、やりたい道が今一つ見つからないのでしょう。しかしこれからは、物づくり的なものを勉強したり経験していくようにすることで、これはというものを見つけていくのがいいと思います。

というふうに整理されてわかっていくのです。人によってはそれが、信頼関係といった人間づくり的なものであったり、美的づくりであったり、知識づくりであったりと、さまざまなのですが、ともかく方向性が浮かび出てくるはずで

このように少しずつ整理して、それをその段階の記録として残しておいて、前節で述べたように、自己研鑽と勉強を進めて下さい。焦ることはありません。必ず特性は顕在化してきます。ただ一つだけ、繰り返し言いますと、リスクと責任を負う生き方で探して下さい。また、自分をみつめ続けて下さい。数年経って、もう一度リストアップすればもっとはっきりと見えてくるはずで

成功教に共通した法則をまとめますと、

- ①実現したいことや願望を、はっきりと映像としてイメージ化して脳に描く
 - ②そのイメージしたものが必ず実現すると確信をし、疑いの念を微塵も起こさない
 - ③何事にもプラス発想で事に当たる
 - ④必ず実現するんだという念を強く思い続ける
- ということです。

願望は必ず達成できると言う、いや、「僕は女の子にもてたいと痛切に願ったけど、もてたことは一度もない」「私はスターになりたいと願ったけど、なれなかった」、「だから願望は必ず達成できるなんて嘘だよ」と言う人がいるかもしれません。確かにそういう意味では達成できないものもあります。だからこそ人生は一筋縄ではいかないと言えるのかもしれないのですが、実はその多くは正しくない自我的な思いのようなのです。
(思いが正しくないから達成しなかった、というのは説明になっていない！)

自分が今より成長していったときに、次にどんな自分を目指していくのがいいのかの参考にもしていただければと思います。

<<第一段階＝若い間は「気付き」の時期>>

- ①「自分は」「自分は」という発想が望ましいことではないことを知る時期です
- ②約束を守ったりすることで、信頼される人間になる癖づけをする時期です
- ③不平不満を言わず、プラス発想が望ましいと意識づけをする時期です
- ④自分の長所を見つめ、特性を発掘するための勉強を心がける時期です
- ⑤責任を自分から果たしてみるように、意識づけを変える時期です

<<第二段階＝中年は「行動」の時期>>

- ①エゴ的な発想から脱皮した行動を取り始める時期です
- ②他人の悪口や批判はやめて、信頼される行動を実際に取り始める時期です
- ③どんなことから逃げず、責任とリスクをもって毎日毎日を生きる時期です
- ④自分の特性を活かした仕事を続け、自信をもつ時期です
- ⑤自分をコントロールできる意思力をつける時期です

<<第三段階＝晩年は「悟り」の時期>>

- ①周囲や公を第一にした行動が自然に取れるようになる時期です
- ②誰もが納得する哲学をもち、信頼される人間になる時期です
- ③謙虚な生き方が自然と身についている時期です
- ④天命の仕事の仕上げを、より素晴らしいものにしていく時期です

⑤すべてを肯定できる幅の広い人間であり続ける時期です

段階を経るにつれて、エゴが薄れ、責任感が高まり、自分本来の生き方がつかめるようになっていくのがわかると思います。またそのように成長していけば、人間の特性である「悟り」ある生活も夢ではないことがわかると思います。

陽気に！元気に！

旦那が陽気なところは、奥さんも元気で前向き。子供も元気で明るい性格になっていく。

好奇心！